

第4回 可児とうのう病院地域連絡協議会 議事概要

- 【日 時】 平成28年2月18日（木） 15時00分～16時00分
- 【場 所】 独立行政法人地域医療機能推進機構 可児とうのう病院 講義室（大）
- 【議 題】
1. 当院の概況等について
 2. 地域包括ケア病棟について
 3. 自由討議
- 【出席者】
- | | |
|-------|---------------|
| 熊谷 豊一 | （医師会／可児医師会長） |
| 甲畑 俊郎 | （行政・県／中濃保健所長） |
| 富田 成輝 | （行政・市／可児市長） |
| 小澤 元孝 | （利用者／自治会長） |
| 小林 啓一 | （利用者／自治会副会長） |
| 岸田 喜彦 | （院長） |
| 福井 是子 | （看護部長） |
| 奥村 明人 | （事務部長） |
| 尾石 紀之 | （副施設長） |

【概 要】

1. 当院の概況等について

（パワーポイントを使用し、JCHOの理念、当院の年間データ、今年度の状況について説明）

（行政・市）

- ① 医師不足についてですが、やはりなかなか来ていただけない。小児科だと開業医の方はいるが、入院となるとできないのでという声も聞きます。何か私たちが応援できるようなことがあるんだろうかと考えています。だいぶ厳しいようですので、何かあればこの際聞かさせていただきたいと思います。

⇒ JCHOに移行し2年弱になりますが、助成金の復活をしていただいて、ありがたいです。ある種の考え方では、国の関係の機関に地方自治体がお金を出すのはおかしいとおっしゃる方もいらっしゃいますけれども、必要性をご理解していただいて、また今後ともご協力をお願いしたいと思っております。

小児科のこともそうですけれども、可能なことはこちらから言ったりしてはいますが、やはり手続きなどでできないことも出てきます。早目早目にご連絡やご報告をし、関係を密にとっていきたいと思っております。

(医師会)

⇒ どこも医師不足や医療人の不足はわかっていますが、実際のところ、大学病院などはどうなっているのかよくわからない。

昨日、理事会がありました。可児とうの病院を中心に自分たちも考えています。学校（可茂准看護学校）を人材の養成ということでいえば、背負っているわけです。それに対しては病院の健全な成長があって自分たちもあるわけなので、ぜひとも可児とうの病院に力を入れていただいて盛況になっていただきたいと願っています。人材の養成といっても看護師の養成には努力しているつもりです。これは医師会だけの力ではどうにもならない話です。幸い、この近辺の学校群の中では一番成績もいいし、応募者も多いです。そういう人材を養成するにあたって、医師会の力だけではどうにもならない。生徒たちもだんだん質が良くなっています。ちょうど試験も終わったところです。だいたい今度も全員合格できると予想しています。全員合格しているのも可児はずっと続いているのです。それくらいみんながんばっていますので、その陰には、実習病院としての可児とうの病院があることもずいぶんと感謝もしています。例えば小児科の病棟がないということや産婦人科が特に困っているわけです。その辺のいろんな意味での援助を自分たちもしないといけないでしょうし、地域で盛り上がる方法を考えていかないといけないということを思っています。ぜひ頑張ってくださいと思っています。

⇒ ありがとうございます。

2. 地域包括ケア病棟について

(パワーポイントを使用し、可児市の状況、地域包括ケアシステム、地域包括ケア病棟、今後の課題について説明)

(医師会)

① 地域包括ケアシステムはたいへん結構な話だと思います。お話しの中にありましたように、在宅医療にシフトされているということで、訪問看護ステーションのあり方が大事だと思います。医師会にも訪問看護ステーションがありますが、どんどん減っていると聞いています。訪問看護ステーションは、もっともっと要望があると思っていれば、少ないと聞くのですが、これは自分たちの所だけが少ないのか、こういった大きな病院で地域包括ケア病棟などを持っているとより多くなるだろうと思っていますが、訪問看護ステーションの今後はどうなっていくのですか。どういう人たちが関わっているのかというと、お風呂に入りただけだと聞きます。あまりケアみたいなことはできていないと聞くので、なぜステーションの利用は少ないという話をしていますが、可児とうの病院ではどうなのですか。

⇒ 私が当院に限って感じていることは、本来であれば、在宅に帰してあげたい。また、それをご本人も希望されるけれども、ご家族にそういう受け入れ体制がないというのが一番多い理由の一つです。

もう一つは訪問看護ステーションに依頼があり、看護部は受け入れているのだけれども、診療ができないということ。診に行く医者がないということ。ですから、医師会の先生方をお願いして訪問看護ステーションでうちの患者を診ていただいている方もいらっしゃる。私は一番の原因は、やはりいろんなことがあってご家族では面倒がみれないということがあって、いったん帰ってもすぐに病院に戻られるということが多い。数自体は同じで、増えてはいないですけれども、それほど減ってはいないと思っています。

⇒ ケアマネ（介護支援専門員）の力ですね。なかなか繋げる所がないと思います。訪問看護を有効に使うアピールが少ないのは感じています。もちろん先生の対応とかもありますけれども。現場で思うことは、訪問看護や訪問リハを使えばもっと在宅でやれるのではないか。でも、そういう方法があることを知らない方がまだまだいらっしゃる。ケアマネの会議でもまだまだ広報ができていないと感じています。当院の訪問看護ステーションも増えることはないので、ステーションの看護師が外に出ようということを行っています。地域でこういうことはできるよということをもっともって伝えていかないと広がらないと思います。中から病院にいったらいい、中から入院したらいい、ということは乗り越えていかないと、この先、やはり詰まってしまうのではないかと感じています。

入院していた方が退院する時のことで、例えば、訪問リハがあることはあまり知らなかったという方が多いと思いますし、これからは在宅が中心になっていくと思います。

3. 自由討議

(利用者)

① 栄町で言いますと病院はどうしても便利な場所にあります。われわれにしてみれば、わざわざこの病院を通り越して他の病院に行くということや、小さな医院に行くということはないので、これからもここを主治医として診てもらいたい。待ち時間もありませんけれども、時間を決めて、順番をきちんと決めてもらっていますので、これからも主治医ということでここへ来たいと思いますのでよろしくお願いします。

⇒ 決して拒否しているわけではありませんが、理想と言いますか、現状をもう一度お話ししますと、やはり一番困っているのは内科ですね。具体的に、開業医さんも朝から診ているのだから同じではないかと思われがちですけれども、内科の初診だと他

科の診療科と違って、午前中に受付が終わっても2時から3時まで診察を続けているのが普通です。内科医はその人だけを診れば終わるわけではないので、(当院の状況で示した)あの人数を見ていただければわかりますように、入院患者を持っていますから、その方々に何かあっても対応できない。救急車が来てもだれが対応するのかといった、そういった問題が出てきますので、なるべく時間内に終わらせたい。できるだけ重症の方を診たいので、今も総合案内でフィルターをかけているので、帰られる方もいらっしゃると思いますが、そこでブロックしていることもあります。病院なので何でも診るとするのは本来なのかもしれませんが、病院に関して、こと内科に関しては、そういう状況です。他の科ではまずそんなことはないですし、診させていただいていると思います。休日とか時間外とかご自分のご都合で土曜日にしか来られないから薬を1ヶ月分出してほしいとかいう方も決して少なくはないわけです。基本的にはそういった方は、やはりちゃんとした時間内に来ていただきたい。でないと対応できないことも理解していただきたい。そういうこともこちらからの要望です。

(利用者)

- ② 紹介状がないとなかなか診てもらえないというのを時々話に聞きますけれども、土曜日、日曜日、祝日といった時に、緊急な場合は、例えば救急車を呼ぶほどではない、何とか歩いていけるという場合、紹介状がなくてもここで診てもらえるのでしょうか。

⇒ 急患はみんな診ます。緊急性はないけれどもちょっと心配だから来たとか、検査をしてほしいとかといった場合、どこでもまず内科に行きますね。内科だと、その分だけ他の方が待たなくてはいけない。担当した医師も非常にストレスになるということで、理想ですが、かかりつけ医というのはそういうことを相談して、どこの医療機関がいいよとか、何々科に行ったほうがいいのか、あるいはこのくらいなら診療所で診れるよとかいうことを相談していただけます。本当に胸が苦しい時に紹介状を持ってきてくださいということはありません。緊急時は救急患者として来ていただければ診させていただきます。緊急を断っているわけではありません。

(医師会)

⇒ 先程から出ている紹介状の話はよく聞きます。どこどこのだれだれにかかりたいと医師会に来るのです。医師会では紹介できないのです。はっきり医師会の方でここに行きなさいとか、この先生にきなさいとか言えないのですが、わざわざ言う人がいるのですね。普段診てらっしゃる先生ならきっと今のようなお話しでも診てくれるのではないかと思います。かかりつけ医という言葉で言いますが、かかりつけ医をもっていれば、自分で診れなければ他に紹介してくれると思います。かかりつけ医を持つことは大事だと思います。こちらの病院であれば、院長先生がおっしゃったように、緊急であればどなたか対応してくれると思います。

⇒ 紹介状のことで一言付け加えさせていただくと、正式には診療情報提供書と言いまして、その方の今までの状況やお薬、こういう経緯だということを情報としていただくということ、それが一番大事なことです。お願いしますといった個人とのお手紙というよりは、情報提供が一番の理由ですから、それがないと情報量として不足ですし、ご本人やご家族がお薬を飲んでいることを忘れてしまったりというのがありますので、そういう点では詳細な情報をいただきたいと思います。そういうことが主であると付け加えたいと思います。

(行政・県)

③ 医者が不足していることが言われています。ここは場所が良いと思います。結構暖かく交通の便がよくて、昨年立入検査に来ましたら非常に明るくなっています、病院が元気であれば、医師は入ってくると思います。欲しい欲しいと思っていたら入りません。ゆったり時間をかければ、非常に交通の便がいいし、気候が温暖ですし、そんなに雪が降らなくて、そんなに蒸し暑くなくいい場所です。この病院が元気になれば、ロングレンジで見ると、医者の不足はなくなると思います。

⇒ありがとうございました。

(終了 16:00)